

心をつなぐ あいさつの力

白銀坂

「さとし、今年の夏休みに白銀坂に登ってみたいか。」
七月の初め、父に言われた。



「白銀坂に登るってどういうこと?」
車で通るたびに看板だけは見たことがあるぼくは、不思議に思い、すぐに父にたずねた。白銀坂は、始良市にある国史跡の旧道で、戦国時代には武将たちがこの坂に陣を構えたといわれているらしい。戦国武将に興味があるぼくは、父の話に夢中になった。

夏休みが始まった。今年は、いつも以上にワクワクしている。早く白銀坂に登りたいという思いが、どんどん強くなっていった。

「お父さん、早く早く。」

その日は朝からとても暑い日だった。今日は、父と約束した白銀坂に登る日だ。

「お父さん、先に行くよ。」

この道を戦国武将も通ったのか。石畳が続く坂を目の当たりにしたぼくは、少しでも早く先に進みたいという思いがどんどん強くなった。坂の入り口は緩やかな石畳だったが、先に進んで行くと、坂が急になり、一つ一つの石がごつごつしてきた。はあ、はあ。きつい。歩きにくい。そんなことを思いながらとぼとぼと歩いていくと、

「こんにちは。頑張ってるね。」

若い夫婦が、少し先の方で立ち止まり笑顔で話しかけて来た。ぼくは、下を向いたまま

「こんにちは。」

と返した。すると、後ろの方から、

「こんにちは。ありがとうございます。」

という声が聞こえた。振り返ると、さっきの夫婦に父があいさつをしていた。

「今日も暑いですね。お気をつけて。」

父が汗をふきながら笑顔で話しかけていた。

父がぼくに追いつくと、

「ちゃんとしたあいさつをしないとだめじゃないか。」

と、父が怒った顔で言ってきた。

「何言ってるの。ちゃんとあいさつしたし。」

ぼくは、イライラしながらつぶやいた。父は、ぼくの背中をポンとたたきながら、

「あとちよつとだ。最後まで頑張るぞ。」

と言ってきたが、父の『ちゃんとしたあいさつ』の意味が分からず、ぼくはモヤモヤした気持ちのまま、ただ前を見て歩いた。

しばらくすると、高齢の夫婦が坂を下りてくるのが見えた。ぼくは、イライラした気持ちのまま
「こんにちは。」
とあえて大きな声で言った。

「こんにちは。元気がいいね。もう少しで頂上だよ。暑いけどがんばってね。」

という言葉が返ってきた。ぼくは、ただこんにちはと言っただけなのに、たくさんの言葉が返ってきてびっくりした。そして、なんだかうれしくなった。

その後もたくさんの人とすれ違った。

「こんにちは。」

今度は自然と気持ちのよいあいさつができた気がした。すると、「頑張れ。」や「もう少しで頂上だよ。」「頂上の景色がきれいだよ。」と笑顔で声をかけてくれた。その言葉に元気をもらい、ぼくはぐんぐん坂を上り、いつの間にか頂上に着いていた。

「さとし、よく頑張ったな。」

「うん。」

頂上からは、桜島が見えた。いつも見ているはずなのに、今日の桜島は、いつもより雄大で美しく見えた。

